

4-3.

変数を利用したWebバナー制作

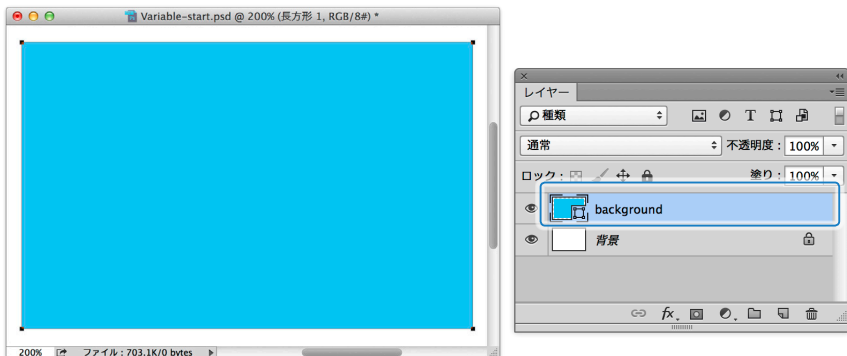
「変数」機能を利用して、複数サイズのバナー制作の効率化を図ります。



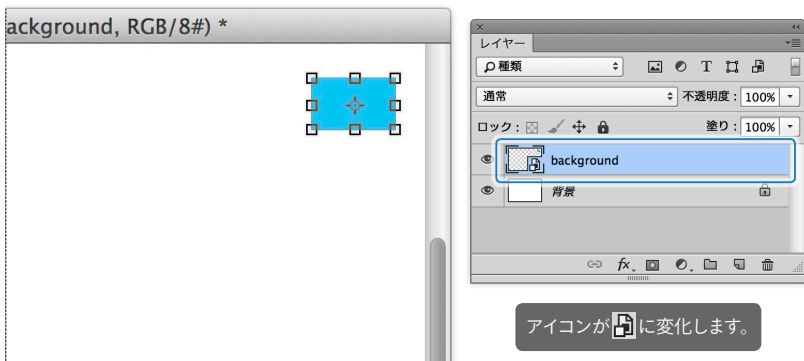
一度作ったデータを別の案件で再利用できるようにフォーマットとして保存しておくことで、ルーチンワークに有効です。バナーに限らずさまざまな場面で役に立ちます。

下準備

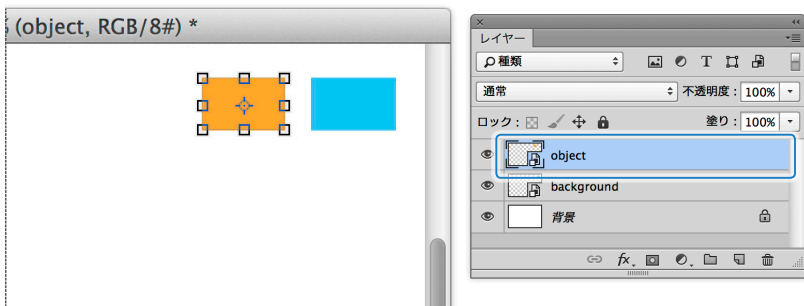
1. 「幅：600pixel、高さ：400pixel」の新規ファイルを作成します。
2. [長方形ツール]でキャンバスサイズいっぱいに長方形を作成し「background」と名前を付けます(後にバナーの背景になります)。



3. 「background」レイヤーをスマートオブジェクトに変換し、縮小して右上に移動させておきます。

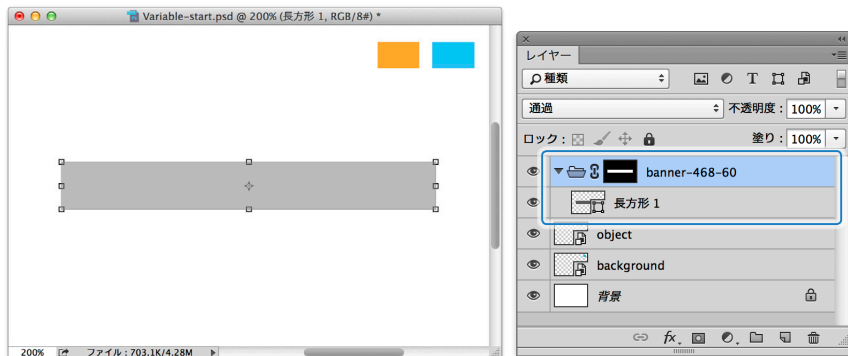


4. ステップ2、ステップ3と同じ手順で、長方形を作成して、スマートオブジェクトに変換して「object」と名前を付けます (後にバナーに入るオブジェクトになります)。



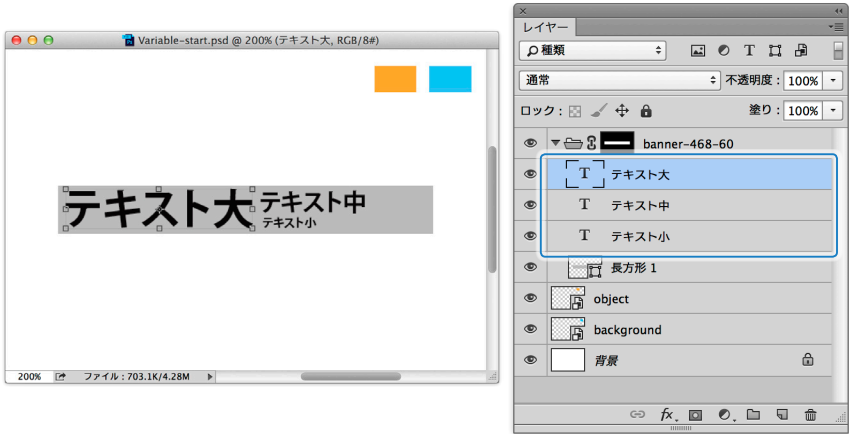
「レイヤーを複製」を行うとスマートオブジェクトは同一のものが参照されてしまうので、改めて長方形を作成してスマートオブジェクトに変換します。

5. 任意のサイズの「マスク付きレイヤーグループ」を作成します。



「マスク付きレイヤーグループ」については、前項(144ページ)を参照してください。

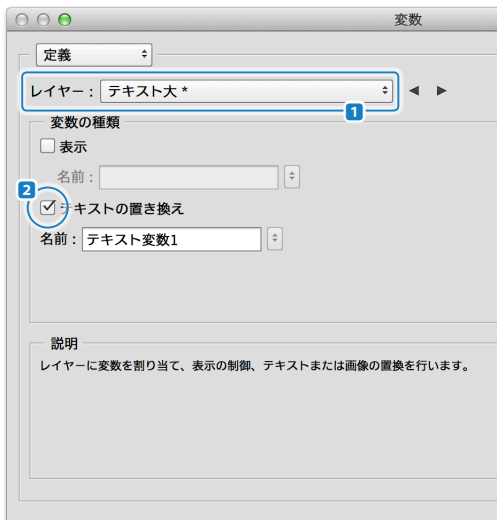
- それぞれのバナーに共通のテキストとして、「テキスト大」、「テキスト中」、「テキスト小」の3つのテキストレイヤーを作成します。文言は後で差し替えます。



変数の定義(1)

テキストレイヤーに変数を定義していきます。

- [イメージ]メニューの[変数]→[定義]をクリックして、[変数]ダイアログボックスを表示します。
- [レイヤー]から「テキスト大」を選択し **1**、[テキストの置き換え]にチェックを付けて **2**、レイヤー名と同じ名前を付けます **3**。

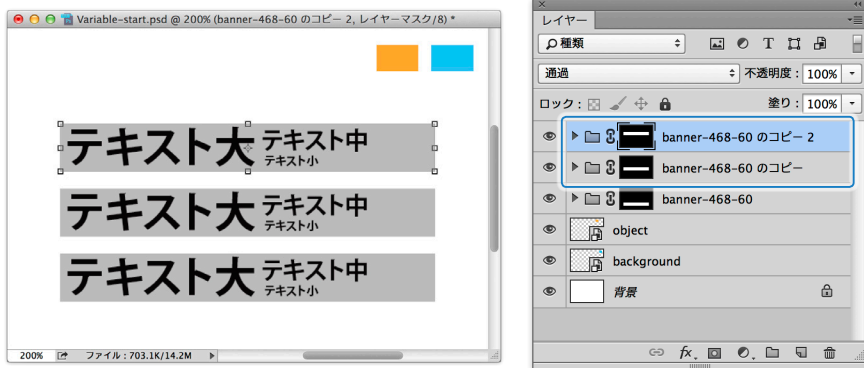


- ほかのテキストレイヤーも同様に定義します。

ほかのサイズのバナーを作成

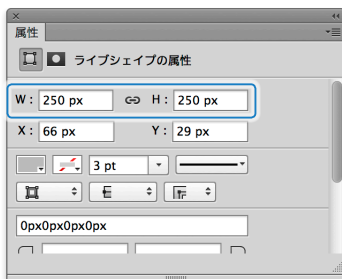
同様にほかのサイズのバナーを作成します。

1. レイヤーグループを複製します。



レイヤーグループを選択して **⌘+J** (**Ctrl+J**) キーを押すと、レイヤーグループごと複製されます。

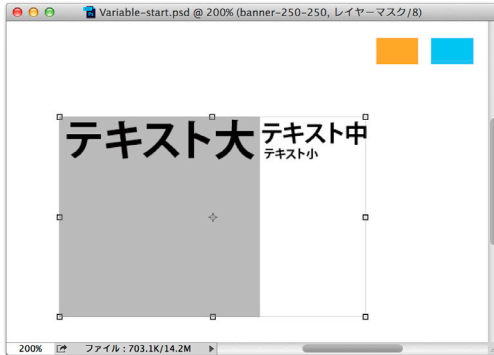
2. 「長方形1」を選択し、[属性]パネルで大きさを変更します。



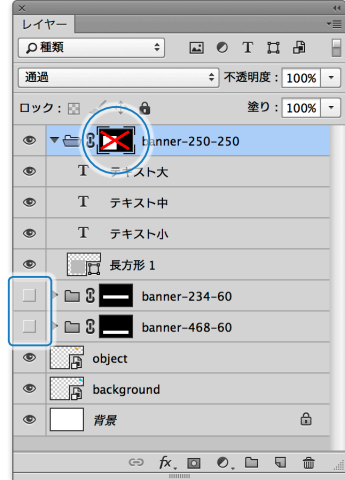
いったん、レイヤーグループのレイヤーマスクを黒で塗りつぶします。 **⌘+Ctrl** キーを押しながら **1**、シェイプレイヤー（「長方形1」）のサムネイルをクリックして選択範囲を作成し **2**、レイヤーグループのレイヤーマスクを白で塗ります **3**。



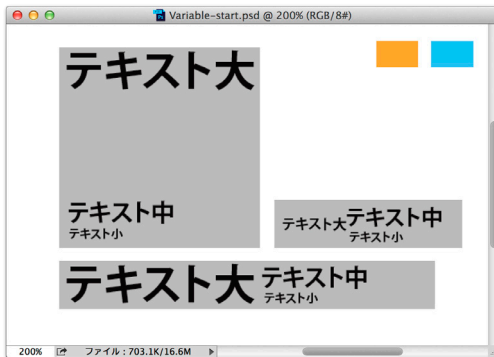
3. 複製したレイヤーグループごとに、3つのテキストレイヤーの位置を調整します。



編集したいレイヤーグループ以外を非表示にして作業するとよいでしょう。また、レイヤーグループの領域の外のテキストは見えないので、レイヤーマスクを **Shift** + クリックしてマスクをオフにしてからテキストの位置を調整します。



4. 同様の手順で3つのバナーを定義します。

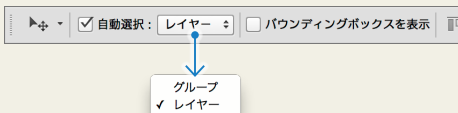


必要に応じてフォントサイズや行揃えを調整してください。例えば、「右揃え」に設定して領域の右端におけば、文字数が増減しても座標を調整する必要が減ります。

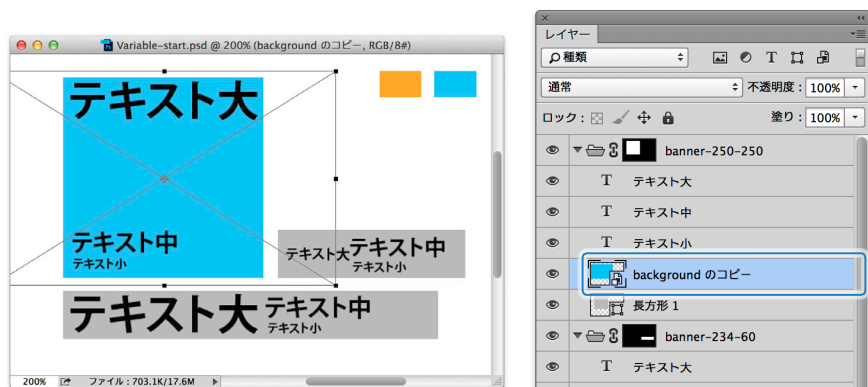


[移動ツール]と自動選択の対象

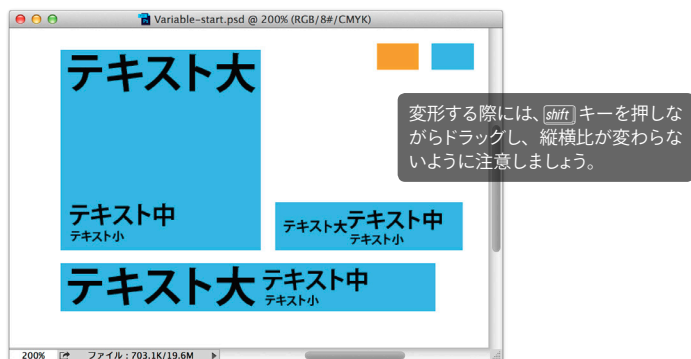
[移動ツール]を選択しているとき、オプションバーで[自動選択]を選択することができます。その際、選択したい対象に応じて「グループ」と「レイヤー」を切り換えるようにしましょう。



5. 「background」レイヤーを複製して「マスク付きレイヤーグループ」内に移動し、サイズいっぴいになるように拡大します。

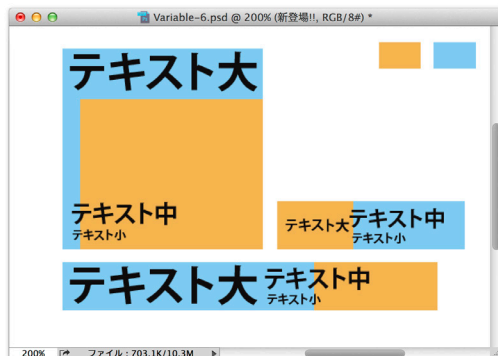


6. ほかのレイヤーグループにも同様に複製して大きさを調整します。



7. 同様に「object」レイヤーを複製して各マスク付きレイヤーグループ内に移動し、こちらは任意のサイズで配置します。

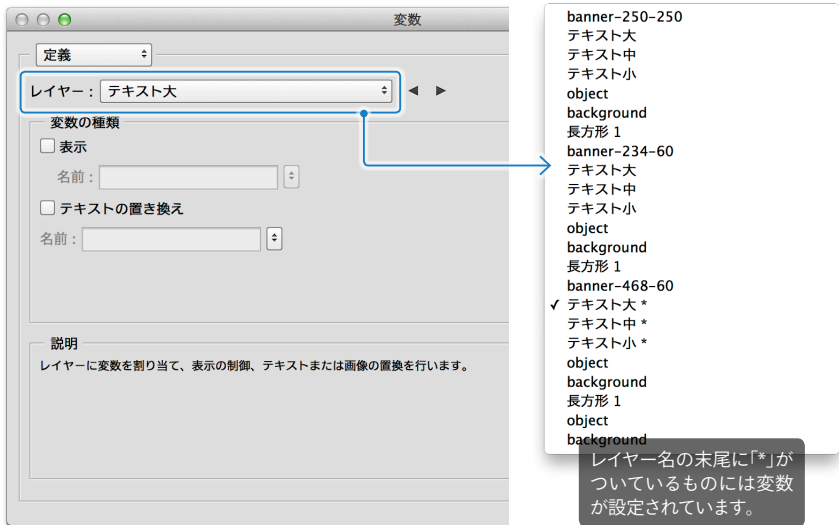
変形する際には、**shift** キーを押しながらドラッグし、縦横比が変わらないように注意しましょう。



変数を定義(2)

複製したテキストレイヤーは変数の定義がクリアされてしまっています。「変数を定義(1)」で定義した変数をそれぞれに定義します。

1. [イメージ]メニューの[変数]→[定義]をクリックして、[変数]ダイアログボックスを表示します。
2. [レイヤー]をポップアップ表示して、レイヤー名の末尾に「*」がついていない「テキスト大」を選択します。



3. [テキストの置き換え]にチェックを付けると「テキスト変数1」と表示されますので、右側のポップアップから「テキスト大」を選択します。

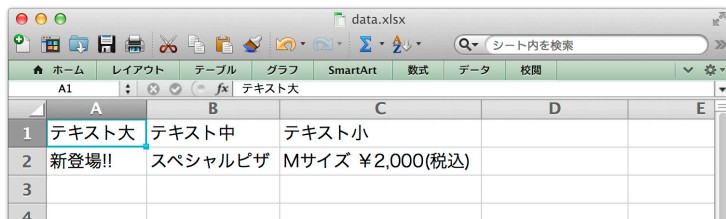


4. ほかのテキストレイヤーも同様に定義します。

値を入力する CSV ファイルを Excel で作成

値を入力するための CSV ファイルを Excel で作成していきます。

1. 1 行目に変数名、2 行目に値を入力します。



2. すべて入力し終わったら PSD ファイルと同じ階層に、CSV 形式で保存します。保存後、ファイルは必ず閉じておきます。

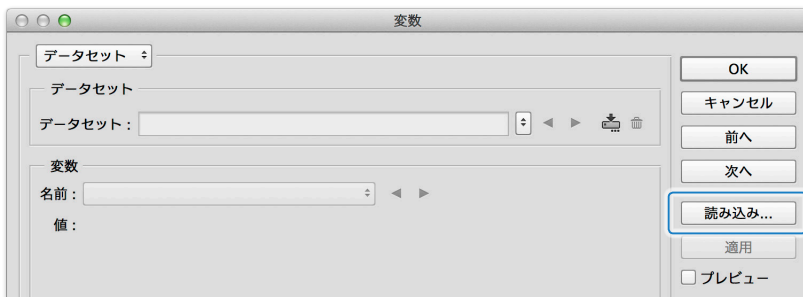
Excel をお使いでない方は、テキストエディタを使って次のように入力し、拡張子を「.csv」で保存します。

```
テキスト大, テキスト中, テキスト小  
新登場!!, スペシャルピザ, "M サイズ ¥2,000( 税込 )"
```

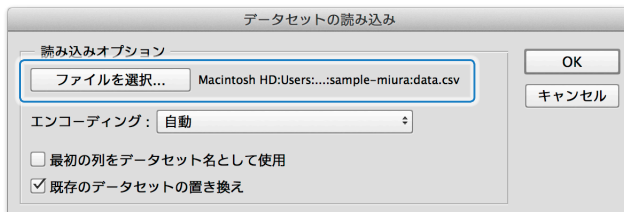
CSV ファイルの読み込み

Photoshop に戻り CSV ファイルを読み込みます。

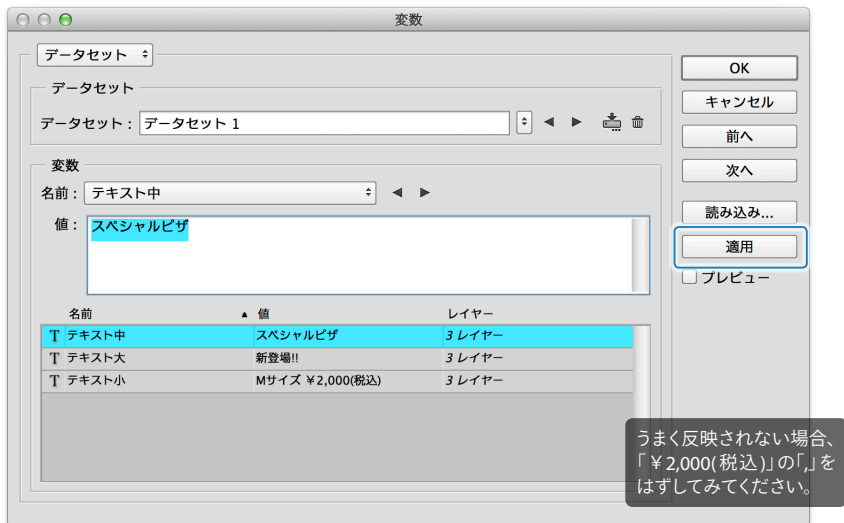
1. [イメージ]メニューの[変数]→[データセット]をクリックして、[変数]ダイアログボックスを表示します。[読み込み]ボタンをクリックします。



2. [ファイルを選択]ボタンをクリックして、先ほど作成した CSV ファイルを選択します。



3. [適用] ボタンをクリックすると、CSVファイルが反映されます。



すべてのテキストレイヤーに値が入りました。

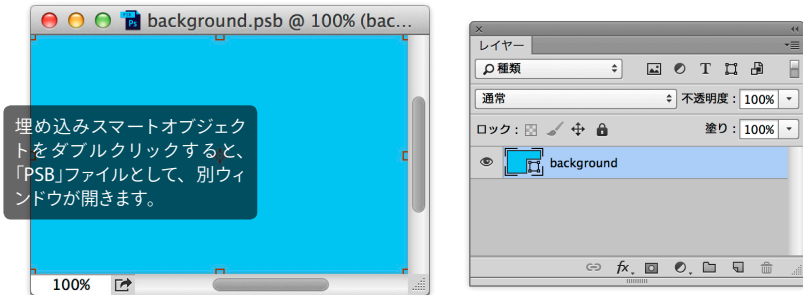
必要に応じてフォントサイズや行揃えを調整してください。



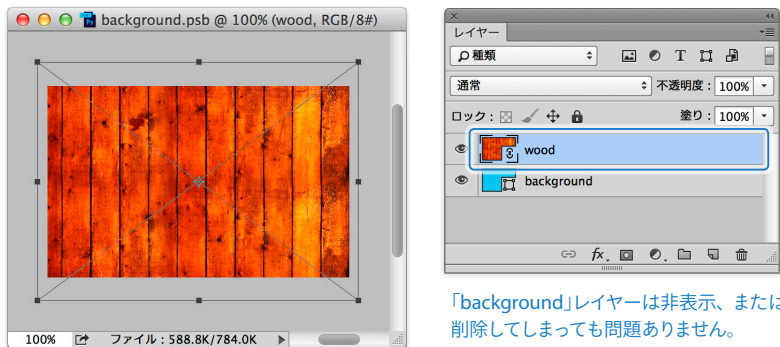
デザインを施す

埋め込みスマートオブジェクトを再編集することで、それぞれのバナーの背景やオブジェクトを一括更新します。

1. 「background」レイヤーのサムネイルをダブルクリックして別ファイルとして開きます。



2. 木目の背景素材を配置し、大きさを調整します。

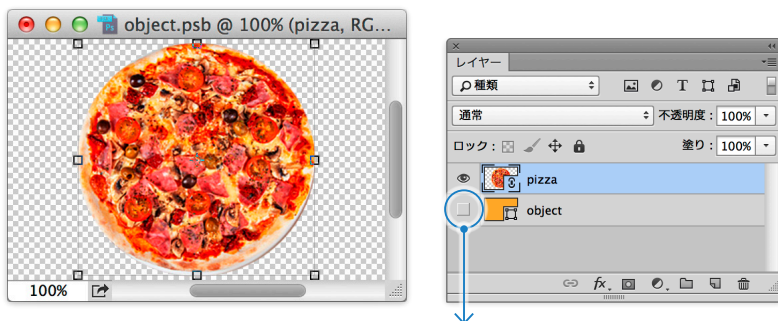


「background」レイヤーは非表示、または削除してしまっても問題ありません。

3. 上書き保存し、ファイルを閉じると「バナー .psd」に反映します。



4. 同様に「object」レイヤーのサムネイルをダブルクリックしてコンテンツを編集します。ピザの画像素材を配置して上書き保存した後、ファイルを閉じます。



「長方形1」レイヤーは非表示に(または削除)します。

すべてのバナーに背景とピザが配置されました。位置や大きさを調整します。

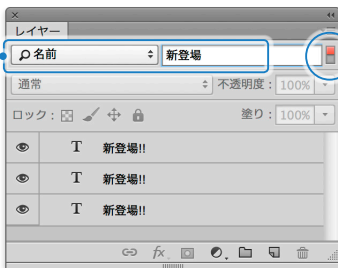


テキストの装飾

テキストを装飾していきます。

1. [レイヤー]パネル上部の[種類]をクリックしてポップアップメニューを表示し、[名前]を選択します。検索ボックスが表示されるので「新登場」と入力すると、「新登場!!」のテキストレイヤーが絞り込まれます。

[名前]でのフィルタリングをアクティブにするには、**⌘ + option + shift + F** (Mac) / **Ctrl + Alt + Shift + F** (Windows) キーを押します。



クリックすると、レイヤーのフィルタリングを終了します。

2. いずれかのテキストレイヤーをレイヤー効果で装飾します。そのレイヤースタイルをコピーし、ほかの「新登場!!」レイヤーにペーストして反映します。



設定したレイヤー効果をほかのテキストレイヤーで流用するには、レイヤースタイルのコピー／レイヤースタイルのペースト([レイヤー]の[レイヤースタイル]のサブメニュー、または、[レイヤー]パネルで右クリックして表示されるメニューから選択)を使うか、レイヤースタイルに登録します。必要に応じて、効果の拡大縮小を行ってください。

ほかのテキストも同様に装飾を施し、レイアウトを調整して完成です。

